

5-3-2 大学職員情報化研究講習会

<事業計画>

私立大学職員の ICT 活用能力の開発・強化を支援するため、大学・短期大学を対象に「大学職員情報化研究講習会」を 7 月頃に基礎講習コース、12 月頃に ICT 活用コースを実施する。教育の質的転換を目指した企画・提案及び学修成果を可視化する ICT の活用、IR システムの整備と活用、全学的教学マネジメントの確立を強化する ICT の活用、業務改革を主体的にすすめるための ICT 活用について、知識・理解の獲得と実践的な考察力の促進を支援する。

<事業の実施結果>

「大学職員情報化研究講習会運営委員会」を継続設置し、「大学職員情報化研究講習会」を 7 月に基礎講習コース、12 月に ICT 活用コースを開催した。以下に委員会及び研究講習会の活動を報告する。

大学職員情報化研修講習会運営委員会

2019 年(令和元年)5 月 23 日、11 月 5 日に平均 13 名が出席し、2 回開催して開催要項の策定、実施準備、開催結果の振り返りを行った。

(1) 基礎講習コースの開催要項の策定

基礎講習コースは、大学の職員が ICT 活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力の獲得を目指した。

プログラムは、基礎的に学習すべき情報を私情協 Web サイトのコンテンツと、昨年度実施した本講習会の成果を踏まえて事前学習してくることを前提に、基本的な知識・理解を共有する「全体会」と ICT を活用した望ましい改善策の構想を検討する「グループ討議」の 2 部構成とした。「全体会」では、「業務革新ツールとしての ICT 活用と課題」、「学修の質保証・成果の可視化に向けた取組み」、「ロボットの活用による生産性向上に向けた取組み」、「教育改善計画を促進する教学マネジメントの取組み」の情報提供を行い、グループで疑問点の確認や理解の促進を図り、ICT を活用した教育改革・業務改革へ主体的に取り組む姿勢の気づきの共有を目指すことにした。「グループ討議」では、職員各自がどのように教育改革や業務改革に関与すべきか、話し合いを通じて現状分析及び課題の洗い出しを行い、3 つのテーマ(「教育の質保証を目指した学修成果の可視化」、「全学的教学マネジメントの強化」、「業務改革」)から選択し、望ましい改善策について中間まとめを行い、発表・相互評価を通じて、大学として望まれる対応策の構想案とりまとめを目指して、以下のように開催要項を策定した。

2019 年度大学職員情報化研究講習会 基礎講習コース開催要項

1. 開催日程：令和元年 7 月 10 日(水)～12 日(金)
2. 会 場：ダイワロイヤルホテル THE HAMANAKO (静岡県浜松市)
3. 対 象 者：私立大学・短期大学に所属する職員
4. 開催趣旨

本協会では私立大学における職員の職務能力の開発・強化を支援するため、教育の質的転換を目指した企画・提案及び学修成果を可視化する ICT の活用、IR システムの整備と活用、全学的教学マネジメントの確立を強化する ICT の活用、業務改革を主体的にすすめるための ICT 活用について、知識・理解の獲得と実践的な考察力の促進支援を目的として研究講習を実施しています。

本コースは、参加者が、ICT 活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、

大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力の獲得を目指します。

5. 本コースのねらい

開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を修得することを目指します。

- ① ICTの活用が大学の管理運営、教育活動の充実に果たしている役割を認識する。
- ② 問題発見・解決プロセスの体験を通じて、自己の業務の改善や職場における課題解決にICTの活用を考え、提案できるようにする。

6. プログラム概要

【事前研修】

大学を取り巻く環境、社会が大学に求めること、ICTを活用した学修環境など、研修参加にあたり把握しておいていただきたい基礎的な情報について、本協会のWebサイト上のコンテンツで事前に学習していただきます。

【本研修】

第1部では、全体会において価値創造に向けた職員の役割を認識した上で、人材育成に対する政府の取組み、①教育の質保証を目指した学修成果の可視化、②全学的教学マネジメントの強化、③業務改革など、それらを実現するための情報通信技術（ICT）活用の意義について情報を共有し、課題認識を深めます。

第2部では、グループ討議により本研修の課題として設定した①から③の3テーマについて、自らがどのように関与すべきか、ICTを道具として活用した望ましい改善案の提言作りを通じて、主体的な考察力、イノベーションに取り組む姿勢の獲得を目指します。

第1部 全体会

(1) インTRODakション 「価値創造に向けた職員の役割」

木村 増夫 氏（上智学院理事長補佐、運営委員会委員長）

職員として認識しておくべき社会の変化と大学教育の役割、大学改革に主体的に取り組む心構えについて理解の共有を図ります。

(2) 情報提供

①「業務革新ツールとしてのICT活用と課題」

遠藤 桂一 氏（芝浦工業大学情報システム部長）

大学の業務改革、教育改革におけるICT活用の現状を紹介し、業務を効果的・発展的に進める上で必須のICTについて、理解の共有を図り、利用にあたっての考え方を整理します。

②「学修の質保障・成果の可視化に向けた取組み」

中村 信次 氏（日本福祉大学学長補佐、AP事業推進委員長）

ディプロマポリシーに対する学修達成度の可視化や、毎年度の学修計画・目標の設定と振り返りを通じた学生自身による自律的な学修改善のプロセスなど、学修の質保障のためにデータを多面的に組み合わせて活用する仕組みについて確認します。

③「ロボットの活用による生産性向上に向けた取組み」

神馬 豊彦 氏（早稲田大学人事部業務構造改革担当副部長）

定型的な業務をICT技術の活用をして業務の効率化と生産性向上を実現することにより、これまで対応できていなかった意思決定支援など業務の高度化を促進する取組みについて確認します。

④「教育改善計画を促進する教学マネジメントの取組み」

田中 邦子 氏（武庫川女子大学教育開発支援室課長代理）

大学教育の改善・改革提案を教学支援システムの掲示板機能を通じて、全教職員を対象に「教育改善・改革プラン」の募集を行う教育改革に向けたプラットフォームの構築と活用の仕組みと効果について確認します。

(3) 全体討議

事前研修を含め、情報提供について理解度の確認を行った上で、ICTを道具として活用した教育改革及び業務改革に主体的に関与することの重要性について、グループ及び全員で共有します。

第2部：グループ討議

(1) 討議と成果のまとめ

職員各自が果たすべき役割やそれを実現するための手段として、ICTを活用する意義・重要性について理解します。

本研修の課題として設定した3つのテーマについて、理想的な教育環境や大学運営などを実現するための課題の洗い出しを行い、解決方策の考察プロセス

- の体験を通じて、職員に求められる能力開発の向上を目指します。
- (2) 発表・相互評価
グループ討議の成果を発表し、グループ間での相互評価・意見交換を行い、様々な課題や解決のあり方があることを体験します。

(2) 基礎講習コースの実施結果

28大学から77名の参加があった。以下に、実施結果の概要を報告する。

- ① 「全体会」での反応は、「事前学習では教学マネジメントのイメージがわからなかったが、取組みを聞いて納得できた」、「理想を描き、何を改善できるか考え、ICT導入で終わりではなく、大きな理想の姿に近づけことの大切さを実感した」、「問題を洗い出し、課題解決を考えていくことが業務効率につながると考えられた」などであった。
- ② 「グループ討議」での反応は、「現状の問題点にここまで集中して向き合うことがなかったので良い刺激になった」、「違う地域、違う大学、違う価値観、様々な考え方に触れることができた」、「まとめる難しさを感じたが、解決案を出すプロセスを体験できて自信につながった」、「大学に求められる三つのテーマから選ぶのは大変だったがやりがいがあった、情報提供があり活用方法が考察しやすかったと思う」、「業務に忙殺されがちだが、直接関係ないことや大学全体に関することを考え知識を収集する努力が必要だと感じた」などであった。なお、開催結果の詳細は、巻末の2019年度事業報告の附属明細書【2-10】を参照されたい。

(3) ICT活用コース開催要項の策定

プログラムは、「学修成果の可視化と業務改革」をテーマとして、6件の情報提供により改革行動の一貫として、全学的な教学マネジメントの確立と質保証の取組みとしての学修成果の可視化とIRの活用、業務の質的向上を目指す取組みについて理解の共有を目指して構成し、以下のように開催要項を策定した。

2019年度大学職員情報化研究講習会 ICT活用コース開催要項

1. 開催日程：令和元年12月16日（月）
2. 会 場：同志社大学今出川キャンパス
3. 対 象 者：私立大学・短期大学に所属する職員及び教員
4. 開催趣旨：「学修成果の可視化と業務改革」
AIや全てのモノがインターネットでつながる Society5.0、第4次産業革命の変化が、産業や働き方、生活に至るまで見られるようになってきており、大学教育には自分の目標を自分で見出し、多分野の知識を組み合わせて問題解決に取り組む人材育成に向けた教育改革が社会から要請されています。
それには、イノベーションを支える能力を生涯に亘って身につけられるよう、大学教育の質向上に向けた取組みとして、教育の質保証に対する改革行動が喫緊の課題となっています。
そこで、本研究講習会では、改革行動の一貫として、全学的な教学マネジメントの確立と質保証の取組みとしての学修成果の可視化とIRの活用、業務の質的向上を目指す取組みについて理解の深化を図ります。
5. プログラム概要
 - (1) 全体会
 - ① 挨拶
横川 隆一 氏（同志社大学副学長）
木村 増夫 氏（上智学院理事長補佐、運営委員会委員長）
 - ② 教育の質の保証と情報公表・教学マネジメント確立に向けた指針の検討、全国的な学生調査による教育の可視化・

奥井 雅博 氏（文部科学省高等教育局高等教育企画課課長補佐）

- ③ 学修成果可視化と IR への活用－取組みと課題－
藤木 清 氏（関西国際大学評価センター長、経営学部教授）
- ④ 学修成果の可視化を効果的に進めるための基礎知識
中村 浩二 氏（株式会社進研アド **Between** 編集課編集長）
- ⑤ ロボット（RPA）の活用による業務の質的向上に向けた取組み
神馬 豊彦 氏（早稲田大学人事部業務構造改革担当副部長）
- ⑥ ノンプログラミングでの学内申請システム化による業務効率化・紙廃止の取組み
岡 潤也 氏（立命館大学情報システム部業務改善企画課長）

（４）ICT 活用コースの実施結果

65 大学2 賛助会員から 118 名の参加があった。改革行動の一貫として、全学的な教学マネジメントの確立と質保証の取組みとしての学修成果の可視化と IR の活用、業務の質的向上を目指す取組みについて、5 件の情報提供を通じて理解の共有を目指した。

参加者のアンケートからは、「具体的な事例をまじえて説明があったので、理解しやすかった」、「先駆的な内容でとても勉強になった」、「RPA を導入するメリットがよく理解できた」、「学内申請のペーパーレス化について導入検討している中で勉強になった」、「大変分かりやすく、本学でも取り入れたいと思った」などの感想が寄せられた。

以下に 5 件の情報提供の概要を報告する。

- ① 「教育の質の保証と情報公表－教学マネジメント確立に向けた指針の検討、全国的な学生調査による教育の可視化－」として、教学マネジメント指針の検討状況、スマホを用いた学部3 年生を対象とした大学教育や学びの実態を把握する試行調査の実施とその扱いなどについて説明があった。
- ② 「学修成果可視化と IR への活用－取組みと課題」として、関西国際大学から、学修成果可視化のツールとして「KUIS 学修ベンチマーク」を用いて、学生にディプロマポリシーに掲げる態度・姿勢・能力、問題発見・解決力、コミュニケーションスキル、専門的知識・技能の活用力がどの程度成長したかを定期的に振り返る機会を設けている。また、学生支援の IR 活用として、過去のデータからシグナルを読み取り、早い対応や支援対策の検討が可能となっている紹介があった。
- ③ 「学修成果の可視化を効果的に進めるための基礎知識」として、株式会社進研アドから、大学を取材したエピソードを交える中で、学修成果の可視化のコツは全ては可視化できない前提に立ち、可視化(評価)を教育力向上手段として考えることで、評価のための評価になってはいけないなどの説明があった。
- ④ 「ロボット（RPA）の活用による業務の質的向上に向けた取組み」として、早稲田大学から、支払請求伝票の入出力処理や研究資金の経理処理の適正運用、効率化、集中化などを目指した定型業務の改善の一環として、RPA（Robotic Process Automation）を 2018 年度に全学的に導入したことで、約 4 万時間の創出効果があり、余った時間を教育研究及び学生支援等の向上に活用することで、人員の削減には繋がらない質的向上の紹介があった。
- ⑤ 「ノンプログラミングでの学内申請システム化による業務効率化・紙廃止の取組み」として、立命館大学から、学生や教員の申請書類転記や二重入力を行わない発生源入力の実現を目指し、プログラミング不要な WEB・クラウド型ワークフローシステムの構築を進め、稟議書 1 万件、申請書 2 万件のペーパーレス化の紹介があった。

なお、開催結果の詳細は、巻末の 2019 年度事業報告の附属明細書【2－10】を参照されたい。